

[試験紹介]

機械利用による省力的ぶどう栽培の実証

近年、県内の果樹産地では生産者の高齢化や担い手不足が進んでおり、産地の維持発展のためには新規就農者や新たな担い手が導入しやすい栽培技術の開発が求められています。一方、ぶどう栽培は収益性が高い反面、施設整備に多額の費用が必要であることに加え、栽培管理に多くの労力を要することが課題となっています。

そこで本研究では、従来の平棚栽培よりも低コストで導入できるトレリス棚を利用した垣根仕立て栽培に着目し、省力的なシャインマスカット栽培体系の確立を目指します。垣根樹形や仕立て方法の違いが作業性や樹体生育に及ぼす影響を調査するとともに、摘心機や静電ブームなどの作業機を活用し、栽培管理作業の効率化や労働負担の軽減効果を検証します。



写真1 ぶどうの垣根仕立て栽培



写真2 機械による摘心



写真3 静電ブームによる防除

(果樹研究室)

[試験紹介]

マイクロフォガー散水によるなし果実障害対策

近年の気候変動に伴う夏季の高温により、なしでは日焼け果などの生理障害が増加し、品質や収量の低下が問題となっています。特に本県の主要品種「にっこり」は、高温条件下で果実障害が発生しやすく、安定生産に向けた対策が求められています。

マイクロフォガーは微細な霧を散布することで、樹体周辺の温度上昇を抑え、果実や葉の高温ストレスを軽減する技術です。そこで本研究では、なし園にマイクロフォガーを設置し、果実表面温度や気温、湿度などの環境データを収集して散水効果を調査します。また、日焼け果や水浸状障害の発生状況、果実重や糖度などを測定し、障害軽減効果と果実品質への影響を検証します。

本研究により、マイクロフォガー散水による高温障害の軽減効果を明らかにし、気候変動下でも安定したなし生産を支える栽培技術の確立を目指します。

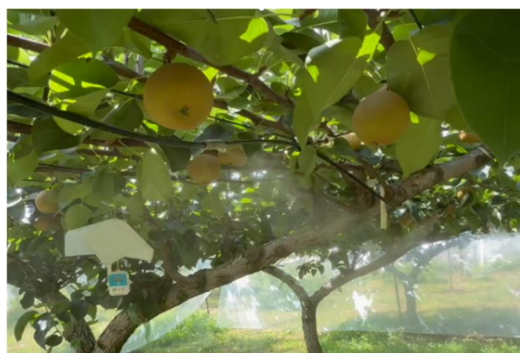


写真 マイクロフォガー散水の様子

(果樹研究室)